

移動販売でつながる地域の輪

皆さんは普段どこで買い物をしていますか？

市では、ご自宅の近くに食料品などを購入できる店舗がない地域にお住まいの方々などを支援するため、昨年10月に「ウエルシア薬局株式会社」と協定を結び、12月から全国初となる地域共生型移動販売を開始しました。

「移動販売車「うえたん号」は、地域の買い物支援をはじめ、高齢者、障がい者、子どもなどの世代を超えた交流の場を作ります。



月～金曜日毎日運行

月～金曜日の午前10時ごろから午後4時ごろまで運行しています。各日10カ所程度、一週間で市内55カ所を巡っています。
※1月1日～3日は運休
その他の運休については、店舗またはうえたん号にご確認ください。

約500品目を用意

食品、日用品、冷蔵・冷凍食品、化粧品など約500品目を載せています。また、事前に連絡すれば医薬品も購入できます。
価格は店舗と同じでポイントも貯まり、電子決済にも対応しています。

薬剤師さんへの相談で安心

車両には大型モニターを搭載し、薬剤師などとオンラインによる相談を行うこともできます。

高橋さん(荒木在住・写真左)

けがをして自転車に乗れなくなってから3年ほどひきこもりがちになっていましたが、自宅の近くに移動販売車が来ることを知り、利用するようになりました。自分の目で見て選ぶ楽しさと、久しぶりに会う友人との会話が嬉しく、毎週楽しみにしています。移動販売のおかげで笑顔が増えました。

高齢の方も



細野さん(埼玉在住)

運行開始から毎回利用しています。うえたん号は自分の目で見て買い物ができるので、当日にないものでも、頼めば翌週持ってきてくれるので大変助かっています。買い物しているときは、普段あまり話さない方や普段挨拶しかなかった地域の方とも話せますし、中には手伝ってくれる方もいて、地域の方と触れ合う機会も増えています。

障がいがある方も



つながる輪。

毎月延べ約1,000人が利用しています

施設利用者も



川辺さん(桜町在住)

普段はデイサービスを利用する以外、外出する機会がないので、毎回利用しています。以前は注文配達で日用品などを買っていたのですが、自分で見て買い物ができるので、自身のものだけでなく、家族のものも買うことで、家族との会話も増えています。

子どもも



野村さん(放課後等デイサービス きんかぎんか 児童発達管理責任者)

子どもたちも毎回楽しみにしており、自分で計算して買い物をする良い機会になりますし、高齢の方と触れ合うことで対応を自分で考えたり、得られるものも多いです。核家族が増える中で、うえたん号がコミュニケーションツールの一つとして地域コミュニティの再構築につながることを期待しています。

地域共生型(多世代交流型)とは？

みんながつながる 笑顔あふれる 移動販売

買い物課題の解決だけでなく、販売を通じて人が集うことで世代を超えた交流・相互理解の場となり、よりよい地域づくりの一歩となります。

地域コミュニティの創出

買い物を通じてさまざまな人と人が出会い、交流することで地域のつながりを進めています。

多世代の相互理解

子どもや障がい者、高齢者、施設入居者などが地域で出会い、触れ合うことで相互理解を進めています。

地域の見守り・助け合いの推進

住民同士がつながることで、見守りや健康状態の確認、安否確認など、地域での気かけや助け合いにつながります。

健康の増進

外出機会の確保の他、薬剤師、管理栄養士など専門職による各講座の実施を通じて健康増進につなげます。

巡回先の施設などには、販売時間の前後に薬剤師、管理栄養士、ビューティーアドバイザーなどの専門職を派遣し、講座を開催しています。また、地域では、販売時間の前後で体操などを行っている団体もあります。



協力企業による美容講座



栄養講座



100歳体操



100歳体操を実施する団体には、専門職の派遣や器材の貸し出しなどを行っています。